



「彦根城の世界遺産登録」に向けて大きく一歩前進しました！

これまで世界遺産に登録されるには、

- ①国内の「世界遺産暫定リスト」に記載
- ②国がそのリストから資産を選びユネスコへ推薦書を提出する「国内推薦」
- ③ユネスコの依頼を受けた専門家（イコモス）の「現地調査」
- ④ユネスコの世界遺産委員会で審議・決定する「登録」

という流れでした。が、今回彦根城は新しい手続き方法として世界でも初めて①と②の間に「事前評価」を受けることになり、その評価結果が10月9日に文化庁から発表された次第です。なお、この制度は令和9年に推薦する

資産から義務化されますが、事前に専門家に顕著な普遍的価値の証明や、保存管理の状況、地域コミュニティの参画などを評価いただけますので、より精度の高い推薦書作成が可能となり、着実なステップを踏むための制度と言えます。

その結果ですが、彦根城は日本における徳川幕府の地方政治拠点として機能した「大名統治システム」をよくあらわしている、世界的に見ても顕著で普遍的な価値をもつ可能性があるとの肯定的な評価を得ました。今後、年度内には国内での他の資産などとの比較をさらに進め、より詳細なわかりやすい説明ができるように推薦書をブラッシュアップし、令和7年度の「国内推薦」、令和8年度の「現地調査」、そして令和9年の「登録」を目指してまいります。

暫定リストに掲載されてから苦節32年、ようやくここまでできましたが、これまで400年以上続いた彦根城としましては、世界遺産登録はゴールではなく、ここから次の400年も彦根とお城が続くための節目と捉え、さらなる持続可能な彦根の発展に向けて皆さんと一緒にスタートを切りたいと思います。



和田 裕行

彦根城は、知れば知るほど、オモシロイ。

未来に残そう みんなのお城 -vol.21-

彦根城を世界遺産に

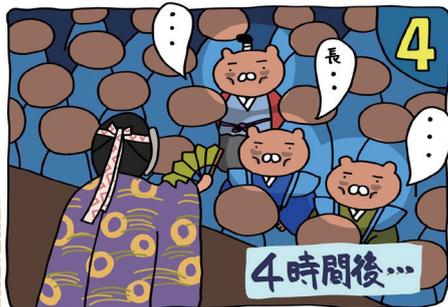


彦根城世界遺産登録推進室
☎ 26-5833 FAX 26-5899

なぜ、お城の中に能舞台があったのか？

能は、幕府の公的な行事の際に開催され、全国の大名もこれに倣いました。彦根藩でも、正月や先祖供養の日などに能が催されました。能は、単に芸能を楽しむだけでなく、藩主と家臣と一緒に物語に感動し、価値観を共有して、話し合いの政治をスムーズにするための重要な催しでした。

彦根城博物館にある能舞台は、明治以降、他の場所に移動されましたが、博物館建設の際に元の位置に戻された「本物」で、世界遺産の価値に関わる重要な文化財です。



※能は、長い場合は丸一日演じられました。